

第5学年 社会科学習指導案

江東区立第四砂町小学校 5年2組 平山 潤

1 小单元名 「情報産業とわたしたちの暮らし」(8時間)

2 小单元の目標

放送や新聞などの産業について、情報を集め発信するまでの努力や工夫などに着目して、映像、文章資料などの各種資料で調べ、まとめ、放送などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、放送などの産業は国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

3 小单元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報を集め発信するまでの工夫や努力などについて、文章資料、映像などの各種資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、放送などの産業の様子を理解している。	① 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、問いを見だし、放送などの産業の様子について考え、表現している。	① 放送などの産業について予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
② 調べたことを図や文などにまとめ、放送などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。	② 放送局などから発信される情報と自分たちの生活を関連付け、放送などの産業が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	② 学習したことを基に、情報を発信する側と受信する側の立場から多角的な視点で、国民生活に大きな影響を及ぼしている情報メディアとの向き合い方について考えようとしている。

4 目指す児童像

本小单元を通して、放送、新聞などの産業が多種多様な情報を収集・選択・加工して提供していることや国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解し、情報化社会の中で、情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断すること送り手として責任をもつことの大切さを認識して生活しようとする児童の育成を目指していく。

5 教材について

本小单元では、放送を事例として取り上げ、主にNHKをはじめとした報道局が、収集・選択・加工の過程を経て情報を提供していることを学習していく。特に、本小单元では、2024年1月1日に発生した能登半島地震にける災害報道を取り上げる。能登半島地震では、東日本大震災以来となる大津波警報が発表され、NHKの放送では、アナウンサーが「一度避難したらもどらないで」「命を最優先に逃げること」など強い口調で伝える「命を守る呼びかけ」をしていたことが話題になった。地震発生直後の緊急放送において日常的な訓練を生かし、短い時間で情報を集め、放送する様子は、人々の命に大きく関わる放送をする責任や放送局で働く人々の思いや工夫を捉える手掛かりになると考えた。また、災害発生直後の放送と並行して、通常時の放送の様子についても調べることで、丁寧に情報を集め、選択して早く、正確に放送するための努力や工夫について子供たちが気付けるようになると考えた。

「つなぐ」段階では、情報リテラシーの観点からSNSを中心とした「震災発生時の誤報、偽情報」や「令和の米騒動」の影響を取り扱う。地震発生時のSNSにおける誤報、偽情報といったものは、避難や救助への深刻な影響を及ぼすとともに、自分たちも発信者となるツールであるがゆえに、放送局の人々が責任のある報道を心掛けている姿勢と比較しながら、自分たち国民と情報の関わりについて子供たちが自分の考えをもてるように教材化を図った。また「令和の米騒動」は、放送局や新聞社は正しい情報を国民に発信したのだが、昨年度の不作の影響で主食である米が買えなくなるかもしれないという不安感が高まり、品不足となった。放送や新聞などの情報の送り手が過剰に伝えていたのではないかと、自分たち受け手も冷静に行動できていたのかと問いかける教材になると考えた。

6 小単元の構想

過程	子供の主体的な問題解決の側面から			社会生活の確かな理解の側面から	
	想定される主な「問い」	子供に働かせたい見方・考え方		見方・考え方を働かせる資料	子供が獲得できるようにしたい知識
オリエンテーション	＜事象をつかむ問い＞ わたしたちのくらしと情報は、どのようなかわりがあるのだろう。	←	情報の種類、情報媒体の特徴に着目して	→	・街のイラスト、情報が扱われている場面のイラスト ・各メディアのイメージ図 ・新聞の番組欄 わたしたちのくらしと情報は、大きく関わっている。また、わたしたちは、様々な方法で情報を得ている。
つかむ	＜学習問題をつかむ問い＞ 情報がわたしたちのところに届けられるまでにどんなことが行われているのだろう。	←	情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して	→	・通常時のニュース動画 ・能登半島地震発生速報動画 ・ニュース番組が作られる過程の一部画像 通常時や災害時のニュース番組は、視聴者に届ける速さが違う。ただ、つくり方については、共通しているところも多くありそうだ。
学習問題	放送局にかかわる人々は、どのようにしてわたしたちに情報を届けているのだろう。				
しらべる	＜しらべる問い＞ 放送局にかかわる人々は、どのようにして情報を集めているのだろう。	←	情報の種類、情報の収集の仕方に着目して	→	・記者の話 ・取材ヘリ ・ロボットカメラ ・SNSによる情報収集 ・緊急地震速報 放送にかかわる人たちは、複数の関係者への取材やSNSなど、様々な方法で情報を集める工夫をしている。それによって見る人に正確な情報が伝えようと努力している。
	＜しらべる問い＞ 放送局にかかわる人々は、どのようにして情報をまとめているのだろう。	←	情報の選択、加工に着目して	→	・映像編集者の話 ・編集長の話 ・テロップの仕組み 放送にかかわる人たちは、集めてきた情報から人々に影響のある重要な情報や見る人が求める情報を選び、工夫して情報を伝えられるようにしている。
	＜しらべる問い＞ 放送局にかかわる人々は、どのようにして情報を伝えてしているのだろう。	←	情報の発信に着目して	→	・Nアナウンサーの話（通常時・災害時における工夫や努力） 放送にかかわる人たちは、誰にでも伝わりやすいような工夫をして情報を届けている。また、災害時には一人でも多くの国民の命を守るように努力している。
まとめる	＜特色や意味を考える問い＞ 流れ図からどのようなことが考えられるだろう。	←	放送の産業が国民生活に果たす役割を関連付けて考えて	→	・Nアナウンサーの話 ・毎時間作成してきた流れ図 放送にかかわる人は、重要な情報や見る人が求める情報を、早く正確にわたしたちまで届けるためにいろいろな工夫や努力をしている。それによってわたしたちは自分の行動を考えたり、一番大切な命を守ったりすることができる。
つなぐ	＜発展や関わり方を考える問い＞ わたしたちは何を大切に情報とかかわっていけばよいのだろう。	←	情報の送り手と受け手の立場とを関連付けて考えて	→	・災害時のSNSの偽情報についてのニュース映像 ・令和の米騒動ニュース映像 情報はわたしたちの生活に大きな影響があり、欠かせない。そんな情報を放送局の人々は、多くの工夫・努力をしてわたしたちに早く正確に届けようとしている。だからこそ、わたしたちも間違った情報を流したり、違う受け止め方をしたりしてしまうと生活によくない影響も与えてしまうから自分自身で情報を見極めることが大切にしたい。

7 研究内容との関連

(1) 主体的に問いを追究する工夫

○問いをもたせる「つかむ」段階の工夫

通常時のニュース番組と災害時のニュース番組を提示する。この動画を通して、二つのことを捉えられるようにする。第一に、ニュース番組は、わたしたちが情報を得る方法として、多く用いられ、身近であることを感じられるようにすることである。これらを通して、学習内容の方向付けを図ることである。第二に、わたしたちのもとに情報が届くまでの時間に着目し、通常時と災害時を比較して考えることを通して、「情報がわたしたちのところに届けられるまでにどんなことが行われているのだろう。」という問いを想起できるようにする。この問いを考える際に板書を情報がわたしたちのもとに届くまでをブラックボックス型に構造化し、ニュース番組が作られるまでの過程の写真を用いながら、疑問と予想をくり返していくことで問いを醸成し、学習問題を設定できるようにする。さらに、学習問題に対する予想する際に、テレビ番組がわたしたちのもとに届くまでの過程を考えることで追究意欲を高め、学習計画を立てられるようにする。

(2) 社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

○流れ図の作成

学習問題を設定する際や学習問題に対する予想を考える際に、テレビ番組がわたしたちのもとに届くまでの過程の流れを考え、解決できるように流れ図を活用する。「しらべる」段階では、テレビ番組がわたしたちのもとに届くまでの過程の事実を確かに捉えるために、流れ図に可視化できるようにする。①情報収集②情報の選択、編集、加工③情報発信の過程についてそれぞれ資料を使って調べていく。情報が届くまでの流れを捉えるだけでなく、調べたことをキーワードとして抽出し、関連付けていくことで放送局の人々の工夫や努力があることを捉えられるようにしていく。また、「まとめる」段階でもこの流れ図を活用し、多くの正確な情報を得ることでわたしたちの生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できるようにしていく。さらに、これまでの学習を一つの流れ図に整理することで学習問題に対する自分の考えを表現できる一助になると考えた。

○NHK Nアナウンサーの話の活用

普段、さりげなく目にすることが多いニュース番組だが、子供たちは、なんとなく視聴しているだけであることがアンケート調査からも伺えた。そこで、本小単元では、NHKのNアナウンサーに取材をし、報道を伝える際の強い思いを教材化した。通常時の報道に気を付けていることをはじめ、災害時において「私の努力によって救える命があること。」というような思いを資料化することで、放送局の人々が早く正確な情報を視聴者に届けられるようにするための努力や相互関係を捉えられるようにする。さらに、「つなぐ」段階では、「テレビ放送には、限界がある。だからこそ、命をも守るためにも家族や知り合いといった身近な人と情報を伝え合い、一人でも命を救う仲間になってほしい。」という言葉を提示することで情報の受け手だけでなく、送り手としても考えられるようにしていく。

○情報リテラシーを考える「つなぐ」段階の設定

近年のSNSをはじめとする情報発信の多様化によって、わたしたちは様々な情報を得るようになっていく。情報の中には、ニュース報道を装って虚偽の情報を広めるフェイクニュースも存在しており、近年、世界的な社会問題となっている。そんなフェイクニュースによる事件・事故なども起きている。

子供たちは、そのような情報が流通し、情報を見極めていかねばならないことは理解しているが、なかなか自身の実生活と結び付けて考えることができていない。そこで、本小単元では、これまで学習してきたことを生かして、「つなぐ」段階を設定する。教材については、「5 教材について」にもあるように「令和の米騒動」を扱う。実生活にかかわる身近な問題であり、不確かな情報を扱うことで、情報リテラシーについて、議論しながら深く考えられるようにする。また、これまで学んできた放送局の人々の早く正確に情報を届けようとする工夫や努力を根拠にすることで、情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことの大切さを認識して生活しようとする態度を養えるようにしていく。

(3) 子供の学びを確かにする評価

○学習調整を図る振り返りと評価

学びを深めたり、学習調整が図れたりするように振り返りの視点を「学習してみて考えたこと・思ったこと」「次の学習にいかしたいこと」「学び方にどうだったか」と設定する。自己の学びが確かなもの、さらなる学びに向けて、指導者は、形成的評価として毎時間子供の振り返りに対して適宜コメントを入れたり、声かけをしたり、価値付けたりすることで学びの質を確保していく。また、学び方の調整ができるようにしていく。さらに指導者は、子供たちの記述を分析することで授業改善を図り、授業と評価の一体化を実現させていく。

8 小単元の指導計画（全8時間）

過程	ねらい (数字は時数)	○主な学習活動 ●評価につながる学習活動 ◆問い ・予想される子供の反応	◎資料 【評価】 □教師の手立て
オリエンテーション	①身の回りにある情報の種類や情報の入手方法について理解する。	○街にあふれる情報に関する写真や日頃、情報を得ている場面の画像を見て、気付いたことを話す。 ・広告や宣伝の情報がある。 ・新聞やタブレットに載っているものも情報だ。 ◆わたしたちのくらしと情報は、どのようなかわりがあるのだろう。 ・政治や経済のニュース ・スポーツの結果 ・事件 ・天気 ・災害情報 ・海外のこと ・芸能 など ○くらしの中で情報の入手方法について話し合う。 ・テレビ ・新聞 ・ラジオ ・雑誌や本 ・インターネット（スマートフォンやパソコン） ○それぞれの入手方法の特徴を話し合う。 ・テレビはすぐに情報を知ることができる。 ・新聞は、その日にどんな情報があるかがぱっと見てわかる。 ・インターネットは自分がほしい情報を選んで、知ることができる。 ・ラジオは他のことをしながらでも情報を聞くことができる。 わたしたちのくらしと情報は、大きくかわっていて、生活に大切なものである。	◎街の写真や情報が扱われている場面の写真 ◎各メディアのイメージ図 ◎新聞の番組欄 ◎事前アンケートの結果 →テレビのニュースで情報を得る児童が9割 【態度①】 発言から「自分たちが得る情報やメディアの種類について、関心をもっているか」を評価する。
つかむ	②ニュース番組が作られるまでの流れに着目し、学習問題を考えることができる。	○前時の振り返りを行う。 ・情報の種類と入手方法や特徴について考えた ○通常のニュース映像を視聴し、気付いたことを話す。 どんな情報 ・太陽電池やアマゾン川干ばつの情報がある。 ・海外の情報や東京以外の情報がある。 ・どんなニュースがあるか、トピックの一覧で分かる。 どうやって伝えている ・アナウンサーが話している。 ・文字（テロップ）で伝えている。 ・現地に行って、中継している ・インタビューして伝えている。 ○能登半島地震発生時の速報映像の動画を視聴し、気付いたことを話す。 どんな情報 ・緊急地震速報 ・大津波警報 どうやって伝えている ・アナウンサーが話す。	◎平日のニュース動画 ◎ニュース番組の一部を切り取った画像 ◎能登半島地震発生時の速報動画 ◎速報動画の一部場面を切り取った画像

	・こわい、叫ぶ感じ、繰り返し呼びかけている。 ・カメラの映像とテロップ。 ・サッカー中継の途中で急に映像を切り替えていた。 ・目立つ色で注意を引くようにしている。 ・「避難して」という内容を伝えるテロップ。 ・日本語以外の言語でもテロップが出ている。 ・緊急時は地震のことだけを放送している。 ◆情報がわたしたちのところに届けられるまでにどんなことが行われているのだろう。 ●平常時と地震発生時（緊急時）の情報が届くまでの時間に着目し、ニュース番組が作られ、私たちに届くまでの流れについて考えたことや予想したことから学習問題をつくる。 ・普段は数時間～1日でニュースが届く。 ・地震の時は揺れる前から速報が出ていた。 情報を集める ・現地に取材に行っていると思う。 ・実際に中継やインタビューがあった。 ・ヘリで取材していると聞いたことがある。 ・あらかじめカメラが設置してあって情報を集めていると思う。 ・インターネットで情報を集めていると思う。 情報をまとめる ・取材した内容を普段は編集したり、カットして短くしたりしているのではないか。 ・緊急時はそんな暇がないから編集はしていないと思う。 ・緊急時のための準備があって、すぐに放送できるのでは。 情報を伝える ・アナウンサーが言う内容を原稿で準備している。 ・情報をすぐに伝えられるのはインターネットを活用しているからだと思う。 ・緊急時は原稿がなく、入ってきた情報をどんどん伝えていくと思う。 【学習問題】放送にかかわる人たちは、どのようにしてわたしたちに情報を届けているのだろう。	□①どんな情報が②どのように伝えられているかなど、映像を見る際の視点を示すようにする。 □私たちに情報が届くまでの間にどんなことが行われているのか疑問や予想を考え、出し合なかで問いを醸成し、学習問題をつくるようにする。 ◎ニュース番組が作られる過程の一部（情報収集、情報編集、情報伝達）を切り取った画像 □疑問や予想を情報収集、編集、発信などに簡単に分類・整理する。 【思考①】 発言や記述から、「情報がわたしたちに届くまでの流れに着目して問いを見だし、学習問題を考えているか」を評価する。
③学習問題に対する予想をもとに学習計画を設定する。	◆わたしたちに情報を届けるために、誰がどんなことをしているのだろう。 ●学習問題に対してニュース番組を作るために誰が、どんなことをしているのかについて、流れ図を用いて予想し、学習計画を立てる。 ・取材をしている。 ・情報を集める人がいる。	□前時に考えたことも踏まえて、ニュース番組が作られる過程を流れ図として提示し、具体的に誰が、どんなことを

		・撮影する人と話を聞く人がいる。 ・固定カメラで撮った映像を流している。 ・テロップをつける人がいる。 ・どの映像を使うか選んでいる。 ・映像編集をしている。 ・アナウンサーの人は話す練習をしている。 ・原稿を作る人がいる。 ◆どのような問いを調べていけばよいだろうか。 【学習計画】 ① 放送にかかわる人々は、どのようにして情報を集めているのだろう。(情報収集) ② 放送にかかわる人々は、どのようにして情報をまとめているのだろう。(情報の編集) ③ 放送にかかわる人々は、どのようにして情報を伝えてしているのだろう。(情報発信・伝達)	しているかについて予想できるようにする。 □予想を整理し、調べる問いを考えることができるようにする。 【思考①】 発言やワークシートの記述から、話し合いを基に「情報が届くまでの流れについて予想し、学習計画を考えているか」を評価する。
しらべる	④ 通常時と災害発生時の情報収集について調べ、流れ図にまとめることを通して、放送局の人たちの情報収集の工夫や努力について理解する。	◆放送にかかわる人々はどのようにして情報を集めているのだろう。 ○情報収集の工夫や努力について調べて、各々の流れ図に書き込んでいく。 ・番組作りに必要な情報を集める。 ・編集会議でどのニュースを取材し、放送するか決めている。 ・記者が取材に行く。 ・ロボットカメラの映像を中継する。 ・取材ヘリコプターは災害時にも活用されている。 ・最近はSNSからも情報を得て、起きた事実を伝えられるようにしている。 ・正確な情報を得るために複数の関係者に取材している。 ・カメラマンと打ち合わせて伝わりやすい映像を撮影する。 ・事前の電話取材などで事実を確認したりして、正確な情報を集める工夫をしている。 ・災害時の緊急地震速報は、気象庁から自動で情報がテレビ局に送られる仕組みになっているので速く伝わる。 ●調べたことをグループや全体で共有し、情報を集めるための工夫や努力についてまとめる。 放送にかかわる人たちは、複数の関係者への取材やSNSなど、様々な方法で情報を集める工夫をしている。それによって見る人に正確な情報が伝えようと努力している。 ○学習の振り返りを行う。	□調べる際の視点を提示し、流れ図の中にはキーワードを書き、関連する内容や順序を線でつなげて工夫や努力を考えられるようにする。 □調べる作業は3人で集まり、分からないところは友達に聞きながら協働的に行うようにする。 ◎ニュース番組の情報収集の流れ ◎記者の人の話 ◎ロボットカメラ ◎取材ヘリコプター ◎SNSによる情報収集 流れ図の記述から、

			「放送局の人たちが様々な工夫や努力をして情報を集めていることを理解しているか」を評価する。
⑤ 通常時と災害時の情報の加工や選択について調べて、流れ図にまとめることを通して、放送局の人たちの情報編集の工夫や努力について理解する。	◆放送にかかわる人々は、どのようにして情報をまとめているのだろう。 ○情報編集の工夫や努力について調べて、各々の流れ図に書き込んでいく。 - 取材で集められた情報を映像編集者が時間内に収まるように短く編集している。 - 見る人がどのような映像を求めているか考えて、肖像権などに注意しながら編集している。 - 編集長は副調整室で番組の進行を確認している。新しい情報が入ってきても対応できるようにしている。 - 見る人が求めている情報は何かを考えて、多くの情報からどの情報をどの順番で放送するか考えて決めている。 - 災害時も見る人が必要な情報を放送しているのは同じ。 - 災害時にはより速く、震度や津波の情報などを伝えるために、情報を自動で（L字）テロップにして作成する仕組みを準備している。 ●調べたことをグループや全体で共有し、情報を編集するときの工夫や努力についてまとめる。	□情報編集は、前時に調べた情報収集の続きであることを確認し、情報が届くまでの流れを意識しながら調べることができるようにする。 ◎映像編集者の話 ◎編集長の話 ◎テロップ作成の仕組み 【知技①】 流れ図の記述から、「放送局の人たちが様々な工夫して伝える情報を選び、加工していることを理解しているか」を評価する。	
	放送にかかわる人たちは、集めてきた情報から人々に影響のある重要な情報や見る人が求める情報を選び、工夫して情報を伝えられるようにしている。		
	○学習の振り返りを行う。		
⑥ 通常時と災害時の情報発信について調べ、流れ図にまとめることを通して、放送局の人たちの情報編集の工夫や努力について理解する。	◆放送にかかわる人々は、どのようにして情報を伝えているのだろう。 ○情報発信の工夫や努力について調べて、流れ図に書き込んでいく。 - Nアナは見る人に疑問を残さないように自分でも関係者に話を聞いたり、勉強したりしている。 - 災害時には国民の命を守ることを一番に考えて、少しでも伝わりやすいようにするにはどうしたらよいか考えて話している。 - 場面に応じて伝え方を変えたり、ときには大きな声で叫んだりして伝えている。 - マニュアルを常に見直す、呼びかけプロジェクトを作る、訓練をするなどNアナは災害時のための準備をとてたくさんしている。	◎NHK Nアナの話（通常時の工夫や努力） ◎NHK Nアナの話（災害時の工夫や努力） 【知技①】 流れ図の記述から、「放送に関わる人たちが様々な工夫や努力をして伝わりやすいように情報を発信していることを理解しているか」	

		●調べたことをグループや全体で共有し、情報を編集するときの工夫や努力についてまとめる。	を評価する。
		放送にかかわる人たちは、誰にでも伝わりやすいような工夫をして情報を届けている。また、災害時には一人でも多くの国民の命を守れるように努力している。	
		○学習の振り返りを行う。	
まとめる	⑦調べたときに作成した流れ図を用いて、情報が私たちに与える影響について話し合い、学習問題に対する自分の考えを記述する。	◆流れ図からどのようなことが考えられるだろう。 ○これまで調べてきたことをまとめた流れ図を見返し、学習内容を振り返る。 ○能登半島地震の際の速報映像を再度、視聴する。 ○NHK Nアナウンサーの話の資料を見て、災害報道に対するNアナウンサーの思いを確認し、流れ図に書き込む。 ・Nアナウンサーは一人でも多くの国民の命を守りたいという思いで、とてもたくさんの時間をかけて働いている。 ・自身の経験から災害放送に強い思いがあるからあんなに努力していたんだ。 ・能登半島地震のときに叫んだのも自分の声でみんなの命を救いたいと強く願っていたんだとわかった。 ●ニュース番組から得る情報によって、私たちの生活にどんな影響があるか話し合う。 ・Nアナウンサーのように放送にかかわる人たちの工夫や努力によって私たちは一番大切な命を守ることができる。 ・スポーツの結果を知って元気が出る。 ・事故や事件の情報を知って気を付けようと考えている。 ・社会がどうなっているかなどを知り、知識が増える。 ・天気予報によって、かさを持っていくかを決めたり、商品の情報で買うものを決めたりなど情報によって生活や行動を考えている。 ・コロナウイルスや感染症など、どんな病気が流行っているかの情報を知ることによって病にかからないよう対策している。 ◆学習してきたことから学習問題に対する答えを考えて書く。	□情報がわたしたちに届くまでの流れやその過程にある様々な工夫や努力について確認する。 □放送時のアナウンサーが第6時で扱ったNHK Nアナウンサーであることを知らせる。 ◎NHK Nアナウンサーの話（災害報道に対する思い） 【知技②】 流れ図の記述から、「放送などの産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解しているか」を評価する。 【思考②】 学習問題に対する考えの記述から、学習したことを基に、「放送などの産業が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。
		放送にかかわる人は、重要な情報や見る人が求める情報を、早く正確にわたしたちまで届けるためにいろいろな工夫や努力をしている。それによってわたしたちは自分の行動を考えたり、一番大切な命を守ったりすることができる。	

		放送にかかわる人たちは、様々な工夫や努力をして、わたしたちに早く正確に情報を届けている。それによってわたしたちは情報を自分の行動に生かしたり、社会で起きていることを知って考えたりすることができる。	
		○学習の振り返りを書く。 ○ONウンサーの話（メッセージ）を読んで考える。	◎Nアナの話（小学生へのメッセージ）
つなぐ	⑧情報の受け手や送り手など多角的な立場から、情報とのかかわりや情報メディアとどう向き合っていくかについて考える。	○前時に書いた学習問題に対するまとめを振り返る。 ○SNSによる災害時の偽情報に関するニュース映像を見て考えたことを話し合う。 ・情報をすぐに信じて行動してはいけない。 ・デマもあるからちゃんと調べないといけない。 ◆わたしたちは何を大切に情報とかかわっていけばよいのだろう。 ○令和の米騒動のニュースを見て考えたことを話し合う。 ・同じ情報でもメディアの伝え方によって、情報の印象が変わる。 ・正しい情報だとしても送り手は発信の仕方をよく考えたほうがいい。 ・受け手が情報からどう行動するかちゃんと考える必要がある。 ○これまでの学習や本時の資料から自分たちが情報の受け手や送り手として情報と関わる時に大切なことを考え、話し合う。 大切だと思うこと ・送り手が責任をもって情報を発信することと受け手が情報を考えて判断すること、どちらも大切。 理由 情報はわたしたちの生活に大きな影響がある。これまで学習したように放送局にかかわる人々はわたしたちに早く正確な情報を伝えるために多くの工夫・努力していた。そんな工夫・努力があっても受け手が違ったとらえ方をしてしまうと生活にも大きな影響を与えてしまうと思ったから。 ○3人組で自分の考えを伝える。 ○全体で意見を共有し、考えを深める。 ○本時の問いに対して最終的に考えたことを学習の振り返りに書く。	◎災害時のSNSの偽情報についてのニュース映像 ◎令和の米騒動のニュース映像 ◎調べる時間に作成した流れ図 □自分の考えが書けない児童には、資料を再度提示し、流れ図も再確認して考えを書くよう助言する。 【態度②】 学習したことを基に、情報の受け手や送り手などの立場から、「国民生活に大きな影響を及ぼしている情報メディアとの向き合い方について考えようとしているか」を評価する。
		情報はわたしたちの生活に大きな影響があり、欠かせない。そんな情報を放送局の人々は、多くの工夫・努力をしてわたしたちに早く正確に届けようとしている。だからこそ、わたしたちも間違った情報を流したり、違う受け止め方をしたりしてしまうと生活によくない影響も与えてしまうから自分自身で情報を見極めることが大切にしたい。	

9 本時の学習 (8/8時)

- (1) 本時のねらい これまでの学習を基に、情報の受け手や送り手など多角的な立場から、情報化社会の中で、何を大切に情報とかわかっていけばよいのかや、情報メディアとどう向き合っていくかについて考えることができる。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ◆発問 ・児童の予想される反応	◎資料 【評価】 □教師の手立て
導入	○前時に書いた学習問題に対するまとめを振り返る。 ・情報はわたしたちの生活に大きく影響している。 ・情報によって健康に過したり、命を守ったりすることができる。 ・放送局の人々の多くの工夫・努力によって、わたしたちは早く正確な情報を得ることができている。 ○SNSによる災害時の偽情報や誤情報に関するニュース映像を見て考えたことを話し合う。 ・情報をすぐに信じて行動してはいけない。 ・デマもあるからちゃんと調べないといけない。	◎調べる時間に作成した流れ図 □前時までに学習した放送局にかかわる人々の切実な思いを再度確認する。 ◎災害時のSNSの偽情報についてのニュース映像 □情報はすべて正しいとは限らないことについて考えることができるようにする。
展開	◆わたしたちは何を大切に情報とかわかっていけばよいのだろう。 ○令和の米騒動のニュースを見て考えたことを話し合う。 ・米が必要以上に値上がりしてしまう影響があった。 ・SNSで受け手が拡散しすぎたことも問題じゃない。 ・情報を見てすぐに米を買いに行ったことが問題だ。 ・米がないと生活が困るから買ってしまおうと思う。 ・メディアの伝え方によって、情報の印象が変わる。 ・正しい情報だとしても送り手は発信の仕方をよく考えたほうがいい。 ・受け手が情報からどう行動するかちゃんと考える必要がある。 ○これまでの学習や本時の資料から自分たちが情報の受け手や送り手として情報と関わる時に大切なことを考え、話し合う。 大切に思うこと ・送り手が責任をもって情報を発信することと受け手が情報を考えて判断すること、どちらも大切。 理由 情報はわたしたちの生活に大きな影響がある。これまで学習したように放送局にかかわる人々はわたしたちに早く正確な情報を伝えるために多くの工夫・努力していた。そんな工夫・努力があっても受け手が違ったとらえ方をしてしまうと生活にも大きな影響を与えてしまうと思ったから。	◎令和の米騒動のニュース映像 □令和の米騒動のニュースでどのようなことが起こっていたのか、解説し、不確かな情報の様々なとらえ方を考えられるようにする。 □自分の考えを書く際に「そう考えた理由」を示すようにする。 □自分の考えが書けない児童には、資料を再度提示し、流れ図も再確認して考えを書くよう助言する。 【態度②】 学習したことを基に、情報の受け手や送り手などの立場から、「国民生活に大きな影響を及ぼしている情報や情報メディアとの向き合

	○3人組で考えを伝え、話し合う。 ○全体で意見を共有し、考えを深める。	い方について考えようとしている か」を評価する。
終末	○本時の問いに対して最終的に考えたことを学習の振り返りに書く。	
	情報はわたしたちの生活に大きな影響があり、欠かせない。そんな情報を放送局の人々は、多くの工夫・努力をしてわたしたちに早く正確に届けようとしている。だからこそ、わたしたちも間違った情報を流したり、違う受け止め方をしたりしてしまうと生活によくない影響も与えてしまうから自分自身で情報を見極めることが大切にしたい。	

(3) 板書計画

